

## II 地域の概況

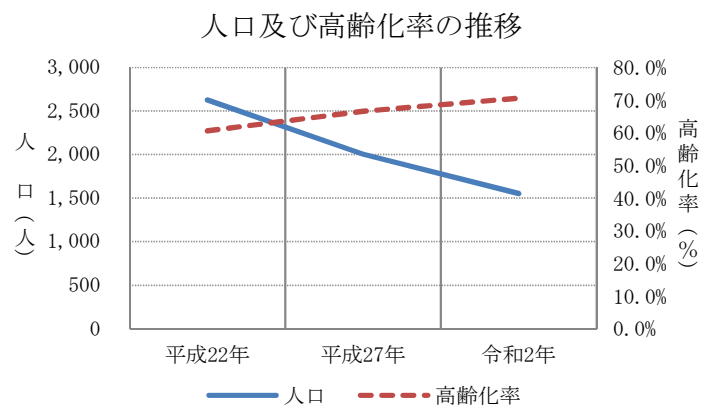
本県の離島地域は、瀬戸内海の多島美や変化に富んだ地形が織り成す風光明媚な景観、残されている豊かな自然環境、日本の原風景ともいえる漁村等の生活空間、古くから交通・交流の拠点として栄えてきた歴史、本土から隔絶されたために形成された独特の伝統・文化など、それぞれの地域が固有の魅力を持っている。

また、6地域全てが一部離島（同一市町村内に離島側と本土側の両地域が存在する場合における離島側地域）であり、離島地域の活力や行政サービスの低下が生じないように、本土と離島地域が一体となって地域の振興に取り組んでいる。

### （1）人口

令和2年の国勢調査では1,553人であり、平成22年の2,627人から10年間で40.9%減少している。

また、高齢化率は70.6%と県全体の30.7%と比べても極めて高く、平成22年の60.6%から10.0ポイントの増加がみられるなど、人口減少、高齢化が急速に進んでいる。



出典：国勢調査（※高齢化率は非公表の児島諸島を除く）

### （2）面積

離島地域の面積は22.62km<sup>2</sup>であり、県全体面積7,114.77km<sup>2</sup>の0.3%となっている。

土地利用別面積は、森林が12.99km<sup>2</sup>で全体の57.4%を占め、次いで農用地が4.53km<sup>2</sup>で20.0%、原野が1.86km<sup>2</sup>で8.2%となっており、宅地は1.26km<sup>2</sup>で5.6%である。

### （3）交通・通信

島外への交通手段は、船舶のみであり、定期航路が運航している地域もあれば、自家用船のみの地域もある。定期航路が開設されている地域も、利用しやすいダイヤや便数の確保、本土側の他の交通機関との連携などの課題を抱えている。

通信は、テレビ放送、携帯電話による通話やブロードバンド環境については、多くの地域に普及しているが、光ファイバによる超高速ブロードバンドは、一部の離島のみを整備となっており、普及が遅れている。

### （4）産業及び就業の状況

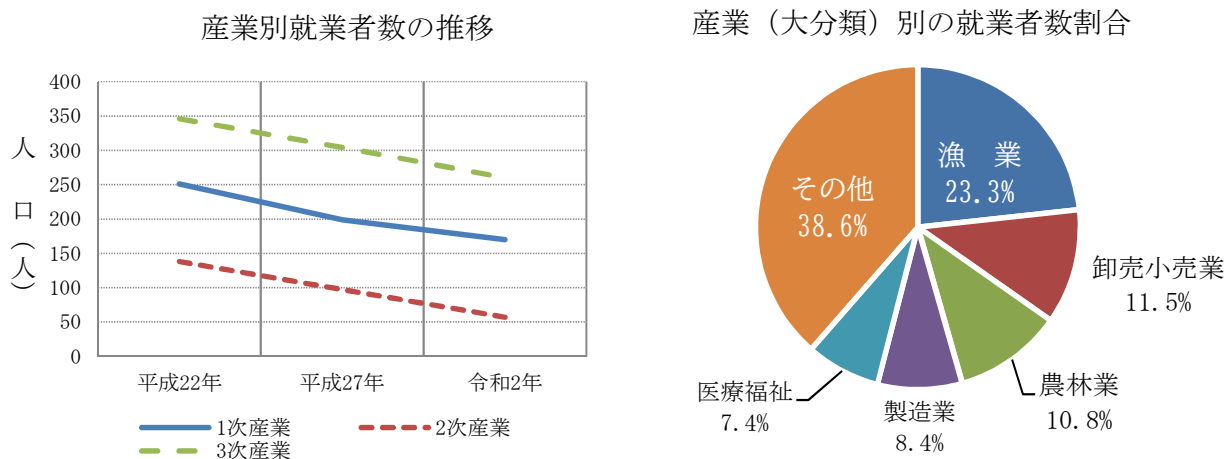
令和2年の産業別就業者は、第1次産業が170人で34.9%、第2次産業が57人で11.7%、第3次産業が260人で53.4%となっている。

第1次産業では、水産業が多くの島で主産業となっており、石島地域ではノリの

## II 地域の概況

養殖が盛んである。また、前島では、畑作や酪農が営まれている。第2次産業では、笠岡諸島で操業されている石材加工業が大部分を占めている。

第3次産業では、卸売小売業や医療福祉、飲食宿泊業などが中心となっている。就業状況は、人口減少、高齢化に伴い、全体的に低下傾向である。

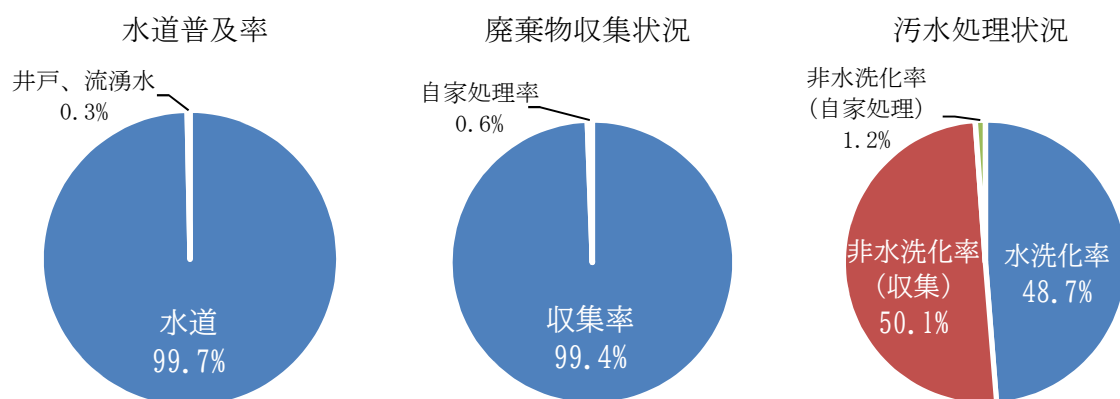


出典：国勢調査（※高齢化率は非公表の児島諸島を除く）

### （5）生活環境

生活用水及び廃棄物処理については、ほぼ全域において行政サービスを提供しているところであり、人口に対する水道普及率及び廃棄物収集率はともに 99%以上である。

汚水処理については、漁業集落排水処理施設や合併処理浄化槽等による水洗化率は 48.7%、バキューム車による、し尿収集や自家処理が行われている非水洗化率は 51.3%である。



令和3年4月時点 出典：関係市調査

### （6）医療

診療所が設置されている島は、14島のうち8島であるが、医師は常駐しておらず、多くの住民が本土の医療機関に依存している。

### (7) 高齢者等の福祉

離島地域の高齢化率が70%を超えている中、介護サービス事業所が設置されている島は、笠岡諸島地域の4島のみであり、多くの住民が本土の介護サービス事業所に依存している。

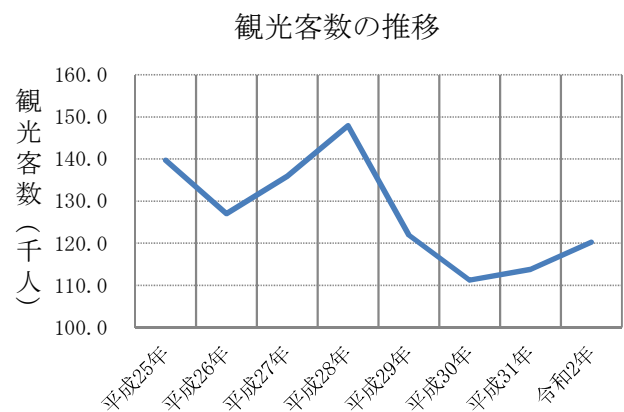
### (8) 教育・文化

教育については、少子化により、学校が休校している地域や、統廃合により本土へ通学せざるを得ない地域がある。

文化については、名勝や天然記念物、踊りや祭りなどの地域に根ざした固有の伝統文化や文化財が多く存在している。

### (9) 観光

離島地域は、瀬戸内海特有の風光明媚な景観などを有しており、夏季には、海水浴客を中心とした賑わいがある。犬島では、瀬戸内国際芸術祭の開催により、多くの観光客が訪れているが、全体では、人口減少や地理的要因、観光に対する嗜好の変化などにより、減少傾向にある。



数値は標本調査

出典：離島統計年報((公財)日本離島センター)及び関係市調査